

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602272		
法人名	有限会社 徳栄会		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市城島町下青木 (電話) 0942-62-5113		

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成21年1月27日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】(20年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 19 人 非常勤 2 人 常勤換算	9.9人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院・安本病院・富田病院・柿添歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周りには田畑が広がり自然豊かな環境にある。ホームの庭にも桜の木が植えられ春には花見を楽しんでいる。他にも、みかんやイチジクの木もあり季節感を味わえる。法人代表者は小規模多機能型施設も開設し、グループホームと共に地域福祉の拠点にしたいとの思いがあり、地域の方々と馴染みの関係作りに取り組んでいる。ホームの作りは天井が高く、窓が広く明るい光が差し込み穏やかで静かな時間が流れている。その中で暮らす利用者は、野菜作りや収穫、庭掃除、生け花でホーム内を飾ったりと、出来る力を発揮し生き活きた表情である。それを見守る職員も明るく、理念の三項目を実践しながら如く寄り添い利用者を支えている。

重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題をホームの全体会議にて話し合い、できる事から改善に向け取り組んでいる。改善課題の1つである地域密着型サービスとしての理念については、法人の基本方針とは別にホーム独自の理念をホーム内で話し合い3項目の理念を作りあげた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が全体会議にて説明し、自己評価項目を職員に記入してもらい各ユニットの管理者が確認しホームの代表者がまとめた。外部評価の意義を管理者、職員共に理解しホームの現状を確認し改善に向けて取り組んでいく姿勢である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回開催している。出席者は家族代表、区長、公民館館長、民生委員、隣組組長、老人会会長、消防団員、市長寿介護課担当者、地域包括支援センター職員、ホーム関係者等各方面からの出席がある。会議内容は、ホームの現状、行事等の報告や地域の情報収集、また、災害時の協力の呼びかけ等運営推進会議を活用している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時に管理者、職員は気持ちの良い挨拶を心がけ会話の機会を必ず作ったり電話にて話をすることで意見等を聴き取っている。ホームの玄関には苦情受付箱を設置している。意見、要望があった場合は、ホーム全体で話し合い、対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会し地域の行事に参加している。祭りの子ども神輿の休憩所にホームを使ってもらったり保育園や小学校等の運動会に招待され、利用者と共に出かけ触れ合いの場所となっている。また、ホームの夏祭りに地域の方々を招待し交流の機会を作っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の3項目の理念をホーム全員で意見を出し合い作り上げた。内容は利用者、家族と共に生き、利用者の心に寄り添い思いやりを持って接すること。利用者へ尊敬の念を持ち笑顔を絶やさず、馴染みの関係作りや人と人とのつながりを大切にする。といった意味合いとなっており実践に向け取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの解りやすい場所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。各ユニットの責任者等が会議の中で理念を確認しており、日々の暮らしの中で利用者との意思疎通に心がけ、利用者の気持ちに寄り添っている。職員同士で日々の業務で気付くことがあれば、確認し理念に添うよう取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し地域の行事に参加したり、保育園や小学校の運動会に招待を受け利用者と共に見物に行く。また、ホームの夏祭りに地域の方々を招待し一緒に楽しむことや餅つきの餅を近所に配ったりしており、地域との交流を図っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が会議で説明し、自己評価項目を職員に記入してもらい、管理者、代表者が意見をまとめた。管理者、職員共に外部評価でホームの現状や改善点を確認し、質の向上に取り組んでいきたいとの思いがある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回会議を開き、家族代表、区長、民生委員、老人会会長、隣組長、消防団員、地域包括支援センター職員、市介護保険課課長等の出席にて活発に情報交換を行っている。ホームの現状を報告することで地域の方々等にホームを知ってもらう機会になっている。		

グループホーム こころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時には必ず担当者や連絡を取り、相談等しやすい関係を構築している。また、在宅の高齢者の生活に関しての話し合い等することもあり、地域の高齢者への支援も含めた連携を取っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居契約時に家族へ制度について説明を行い、ホーム内でパンフレットを元に研修を行っているが職員の周知にばらつきがある。		内部研修を繰り返し行い、全職員が周知が必要な時に説明ができるようホームの強みとなるのではないだろうか。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の近況報告をし必要に応じ電話連絡を行っている。また、ホーム便りを3ヶ月に1回作成し家族へ送り利用者の暮らしぶりを報告している。金銭管理に関しては、預かり金を通帳で管理し領収書と通帳のコピーを家族へ郵送している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員に家族が意見や苦情を訴えやすい環境を作り、要望等いつでも聞き取っている。苦情があった場合は関係者と話し合いを持ち、改善に向け取り組んでいる。玄関には苦情受付箱を設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じユニット間の異動は行われているが、常にユニット間で行き来している為、利用者は顔なじみの関係となっておりダメージは少ない。離職の場合はリーダーが利用者の状態等を伝え新人がスムーズに業務が出来るよう継ぎを行っている。退職や新人紹介はホーム便り、運営推進会議で報告している。		

グループホーム こころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>特に条件は無く、幅広い年齢層の採用を行っている。採用された職員は特技や趣味を活かし日々の業務や行事等でアイデアを出している。また、希望により休暇等取りやすいよう配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>折に触れ会議等で、人と人の付き合いや各人の立場を理解し介護の心得を代表者が職員に伝えている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は案内し職員が参加できるようシフト調整しており、報告を会議等で行っている。その他会議で研修の機会を作っているが、計画に沿ったものでは無く議事録が少ない為、確認ができない。</p>		<p>会議の中で研修を行っているが、職員の段階や必要性に応じた研修の計画を立てて学ぶ機会を作ってはどうか。研修を重ねることで職員、ホームの質の向上に繋がるのではないだろうか。また、記録を取り内容の確認が出来るようにすることが望まれる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者や管理者が他のホームとの会議等で交流を図る機会はあるが、職員同士はバレーボール大会に参加したことはあるものの交流し情報交換等行うまでには至っていない。今後、事業者連絡協議会への参加を検討している。</p>		<p>現在検討中である連絡協議会に参加し職員同士が交流を図り、情報交換や研修の機会を作られることを期待する。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅への訪問や本人、家族の見学や必要に応じ日帰り体験利用にて利用者が馴染めるよう配慮している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者の培った生活の知恵や料理の味付け等職員が教わる機会が多く、日々の暮らしの中で役に立っている。昔の生活習慣を教えること人生の先輩として尊敬している。また、利用者が職員の業務を励まし、双方が支え合って暮らしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を随時聴き取り、本人から聴き取りが難しい場合は本人の様子や表情から汲み取ったり家族から意向を聴き取り確認している。		本人や家族との会話や意向の聴き取りを行い本人の意向の把握をしているが、アセスメント表への記入が少ない為意向が分かりづらいのでアセスメント表を活用し誰が見ても確認できるようにすることが望まれる。
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がよい暮らしするための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族から意向を聴き取り、本人の表情から職員が気づき等も加えケアプランを作成し、担当者会議にてケアプランを確認している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会にて利用者の状態を確認しモニタリングを行っており、6ヶ月に1回見直しを行っている。担当者からの意見や本人の状態に合わせ見直しを行い、本人の現状に合った計画を作成している。		

グループホーム こころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の行きつけの美容室や買い物への同行や入院先へ洗濯物を取りに行くこと等個別対応している。また、家族が宿泊を希望された場合は可能である。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の希望の場合は継続し、希望により協力医への変更もある。協力医からは不定期に往診の支援があり、ホームの看護師と利用者それぞれのかかりつけ医と連携をとり利用者の健康管理や受診体制を整えている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化や急変の際には家族と話し合いを行う体制は取っているが、重度化に向けた指針、同意書は現在作成中で準備段階である。		医療連携体制がある為、重度化した場合の方針等を明確にし、家族への説明と同意書を得ることが必要と思われる。作成中の指針等早急に実行していただくことが望まれる。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格や意思を尊重し言葉遣い等には充分配慮している。個人の名前の分かる掲示物や利用者の写真の掲示、ホーム便りへの掲載等は口頭で了承を得ているが同意書を交わしていない。		ホームには第三者の来訪があり、個人情報が目につくことがある為、本人、家族へ同意書を現在作成中であるが早急に行い個人情報の保護に取り組んで頂きたい。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーション等おおまかな時間配分はあるが、本人のペースに合わせて自由に過ごしてもらっている。また、午前10時の体操を毎日予定しているが強制ではなく利用者の希望にて参加してもらっている。		

グループホーム こころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできることをしてもらい、食事を作る楽しさを味わい、職員と一緒に食事を作っている。食事は職員も一緒に同じものを食べられ和やかに会話をしながら楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の設定はしておらず、自由に入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者へはさげない言葉をかけたり利用者同士での声かけにて入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ役割があり、畑仕事や洗濯物たたみ、食事の後片付け、調理の下ごしらえ等楽しんでいる。また、生け花や貼り絵を楽しんだりドライブや季節感を味わえる名所への外出やホーム内の行事等に参加してもらい気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来る限り戸外に出られるよう声をかけ、近くの公園や田んぼ道への散歩は日課となっている。近隣のスーパーへの買い物も楽しめるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員が見守りを行っている。利用者の行動を把握し職員が声をかけ外に出たい様子であれば近くを散歩し本人の気分転換に繋がるよう援助している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火訓練、避難訓練等夜間想定を含め年2回定期的に実施している。また、心配蘇生法、AEDの手順の講習会へ参加し緊急時への対応への取り組みを行っている。地域の方々へ協力要請の声かけをしており協力体制も整っている。		

グループホーム ころ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を栄養士に確認してもらい、バランスやカロリーに配慮している。利用者それぞれのカップに容量を記し毎日の水分摂取量を確認し、食事摂取量と共に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が家庭的な雰囲気落ち着いた環境となっている。壁面に絵画が飾られたり季節感のある飾り物が置かれ、ホーム全体の採光のバランスも考慮され、天窓からの自然の光が利用者が集うリビングを明るくしている。ソファや畳のスペースにてプライベートな時間が保てるよう配慮されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの筆筒や使い慣れたベッド等が置かれ、好みの生活用品も自由に置かれ、入居以前の生活空間が保たれている。		